

UMC-Japanese Ministry  
101 Route US 9 N,  
Marmora, NJ 08223 USA

# サーキットライダー外伝 2015年復活祭



Raphael, *Resurrection of Christ*, 1499-1502

**U**nited **M**ethodist **C**hurch - **J**apanese **A**merican **M**inistry

合同メソジスト教会日本語ミニストリー

Pastor : Rev. Dr. Jun Yoshimatsu 牧師 : 吉松 純

日本語ミニストリー: [www.umc-japan.org](http://www.umc-japan.org)

トリニティー合同メソジスト教会 : [www.trinityumcmarmora.org](http://www.trinityumcmarmora.org)

## 復活祭と神の時

週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。そこで、シモン・ペトロのところへ、また、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のところへ走って行って彼らに告げた・・・マリアは墓の外に立って泣いていた。泣きながら身をかがめて墓の中を見ると、イエスの遺体の置いてあった所に、白い衣を着た二人の天使が見えた。一人は頭の方に、もう一人は足の方に座っていた。天使たちが、「婦人よ、なぜ泣いているのか」と言うと、マリアは言った。「わたしの主が取り去られました。どこに置かれているのか、わたしには分かりません。」こう言いながら後ろを振り向くと、イエスの立っておられるのが見えた。しかし、それがイエスだとは分からなかった。イエスは言われた。「婦人よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。」マリアは、園丁だと思って言った。「あなたがあの方を運び去ったのであれば、どこに置いたのか教えてください。わたしが、あの方を引き取ります。」イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。イエスは言われた。「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。わたしの兄弟たちのところへ行って、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方のところへわたしは上る』と。」マグダラのマリアは弟子たちのところへ行って、「わたしは主を見ました」と告げ、また、主から言われたことを伝えた。(ヨハネ20:1-18、抜粋)

復活祭おめでとうございます。今年のアメリ  
カ東部は例年になく寒い日が続く、ニュー  
ヨークや北ニュージャージーと比べ温かい  
と言われているケープ・メイ郡マルモラ村  
も摂氏マイナス17度を記録した日があり  
ました。その日は北海道の殆どの町より  
も寒いことを日本からのニュースで知  
り思わずため息をつきました。雪も冬前  
半は少なく「これはこのまま雪かき無  
しで行けるかな」と思ったら2月から降  
り始め雪かきを2度ほどしました。それ  
でも北ニュー

ジャージーの友人たちは「6度も7度も雪かきをした。」とのことでしたので、彼らには申し訳  
ありませんが「やはりマルモラは温かくて冬は  
助かる。」と思ったものでした。数日前、近所  
にクロッカスの花が咲いているのを見つけよう  
やく春が来たことを感じましたが、北半球や南  
半球ではどれほど寒く厳しい冬でも必ず終わ  
りを告げ春が訪れます。春の来ない年はない、朝  
の来ない夜がないように。

復活の日曜日、マグダラのマリアはまだ暗い  
うちに墓に向かったと記されています。これは  
正に「辛く悲しい日々は終わる。夜明けは近  
い。」と私たちに暗示している訳ですが、当事  
者たちにはまだその喜びは理解できませんで  
した。マリアは墓に行き、空なのを見て慌てて  
ペテロとヨハネに伝えます。彼らは一目散に墓  
に走ってきますが、空の墓を見てもイエスの復  
活を悟らず、ただ墓が空になっていることだけ  
信じて帰宅してしまいました。

マリアは一人取り残されました。彼女は「七  
つの死に値する罪の女」と人々から蔑まれ、嫌  
われ、人生のどん底にいた女性ですが、イエス  
に救われ、誰よりもイエスを救い主、先生とし  
て慕い伝道を支えた信徒となりました。そのイ  
エスがユダヤ人指導者たちの陰謀で十字架刑  
になり命を奪われてしまった。マリアは再びど  
ん底に突き落とされた。マリアに唯一残った小  
さな生き甲斐はイエスの亡骸を丁寧に香料や油  
で清め、死出の準備をすることでした。しかし  
行ってみると墓は空でイエスの遺体も消え失  
せていた。マリアは最後の仕事すら取り去ら  
れてしまい、二人の弟子たちが去った後も、茫  
然として家に帰ることすらできませんでした。哀  
れなマリア！

そんなマリアに最初は御使いが、次いでイエ  
ス自身が現れました。イエスの遺体を取り去  
られて混乱し、絶望の涙でイエスの姿すら判  
らなかつたマリアですが、イエスの「マリア」  
との呼びかけに彼女は自分を取り戻しました。  
復活のイエスと対面しあまりの嬉しさに飛び  
つこうとしました。まだ天に昇っていないイ  
エスはそれを制しましたが、マリアの嬉し  
さが私たちにも伝わってくる感動の場面  
です。罪の女と蔑まれたマリアは復活の主  
イエスの最初の目撃者、証人となりました。  
伝承ですがマリアはその後、

女性伝道者となりイスラエルを離れ多くの地で伝道し、最後はエフェソで召天しました。

復活の主は11弟子や多くの弟子たちの前に現れ昇天されました。彼らの悔い改め、生まれ変わりはペンテコステで確固たるものとなります。しかし私は彼らは何故もっと早く、復活の主に出会った時に新生を経験しなかったのだろうと訝しく思うこともあります、やはりそれは神の時なのだろうと思います。

神の時をマルモラ・トリニティー合同メソジスト教会に来てから以前にも増して感じるようになりました。外伝の前号でトリニティー合同メソジスト教会の伝道の様子、日系人家族との出会いなどを書かせていただきました。今回もトリニティーの日々と今年の夏のキャンプのことをこの場をお借りして書かせていただきましたと思います。

前号で書きましたが、この地に来てしばらくは全く日本人、日系人伝道ができるとは期待しておりませんでした。ところが昨年10月にセトさん一家が25年ぶりに教会員復帰された後、新たな出会いが3つもありました。その一つは隣町の合同メソジスト教会の会員、ナガツカ・タミコさん(母)、マリオンさん(娘)との出会いです。タミコさんの亡くなられたご主人は日系2世でワシントンDC生まれ。タミコさんは結婚を機に日本から来られた日本人です。マリオンさんは3世になりますが、日本留学の経験もあり日本語が話せます。隣町の合同メソジスト教会もトリニティー同様白人ばかりの教会で、まさか日系人家族がいるとは思ってもいませんでした。トリニティーの教会員2家族がタミコさん、マリオンさんの住んでいる集合住宅コミュニティの隣人で長年親しくされていることからお二人と知り合いました。その後、彼女たちの教会との合同礼拝でお目にかかったり、トリニティー教会のプログラムにいらして下さったして交わりが始まりました。

二つ目は教会が今年新たに取り組むファミリー・プロミス(Family Promise)という低所得ホームレス・ファミリーを支援するミッションでの不思議な出会いです。ファミリー・プロミスでは仕事はしているが諸事情から家やアパートを失って一時的にホームレスになっている家

族(母子家庭であったり、両親と子供の家族であったり)を教会に迎え日曜学校の部屋や図書室、ミーティング・ルームなどに簡易ベッドを入れて泊まってもらいます。通常1週間一つの教会に泊まり、次の教会に移ります。昼間は働いているのでファミリー・プロミス・センターが車を出し、親は仕事場へ、子供は学校へ送り届けます。教会は朝と夜の食事の用意と寝場所を提供します。また彼らに不便がないように教会に泊まり込むボランティアも教会から出します。家族にはこのプログラムを通して生活出費を抑え、貯金してもらい再起を図るという更生プログラムです。

このプログラムを教会役員会に提案するにあたり、私は1月の終わりに隣町でファミリー・プロミスに関わっているルーテル教会に一晩だけでしたが泊まりに行きました。そこには2家族が滞在していましたが、どちらも3人の子供連れで、一家族の子供の一人は生後3か月の女の子の赤ちゃんでした。その日はたまたま「赤ちゃん用の入浴タライを忘れてきた」と言っていました。赤ちゃんを流して直に湯あみさせているのを見て心が痛みました。このような幼子を連れて、毎週慣れないどこかの教会の部屋に泊まり込んでいる訳ですから。

30代半ばのお母さんに話を聞くと彼女は介護士でご主人も介護士。二人ともミクロネシアのパラオ島の出身で、なんと彼女のお祖父さんは日本人(軍人ではなく一般人)とのこと。第二次大戦中に日本がパラオを占領している時に祖母と結ばれたそうです。パラオは大戦中、激戦区だったと聞いたことがありましたが、まさか南ニュージャージー・ケープ・メイ郡で日本人を祖父に持つ方に会おうとは思いませんでした。逆にアメリカのニュージャージーだからこそ出会ったのかもしれませんが。大戦で占領されパラオ人は日本人をどう思っているのだろうと聞いたところ、「中には勿論恨んでいる人もいるかもしれないが、自分が知る限り日本人はパラオの道や町をきれいに整備してくれたり良いことをしてくれたと思っている。好感を持っている人も多い。」と泣きたいほど嬉しいことを言ってくれました。お祖父さんが日本人だから鼻真目というのものもあるかもしれませんが。

この一家は最近プログラムから出て家族でアパートを借りるまでに立ち直ったとファミリー・プロミスのスタッフからうかがいとても嬉しく思いました。

三つ目の出会いも身近なところにありました。マルモラの町にはクリーニング屋さんが3店あるのですが、ニューヨーク近辺が皆そうであるように、ここでもオーナーは皆さん韓国人です。来て間もなく一番近いところからワイシャツやズボン、背広などを出し始めたのですが、最初の2店は仕上がりやサービスにどうも満足できず、最近になって3店目に行ってみました。そこでも韓国人の女将が出てきて私のシャツやズボンを預かり、私が電話番号と名前を告げると「日本人？」と驚くような顔をして「私の主人も日本人。日系二世です。私たちはハワイで出会って結婚し、こちらに移り住みました。」と急に愛想よく話し始めました。勿論、それからはそのクリーニング屋さんにワイシャツやズボンを持っていくようになりました(笑)。南ニュージャージーに住み始めて1年8か月、一度は諦めた日本人伝道、交わりが不思議な導きで再興しつつあります。

もう一つ大事な伝道のお証しをしたいと思えます。それは今年のミッションで最も大事なものの一つ、と言うより私のこれまでの人生で最も大事なミッションの一つサマーキャンプです。

昨年6月に一時帰国した折に日本基督教団本部を訪問、世界宣教部の加藤誠牧師とお会いした折りにサマーキャンプの話が出て「できれば福島や被災地の子供を夏のキャンプに送りたいですね。」と加藤先生が言われました。

「被災地の子供や大人たち、特に原発事故で自分の家、町に戻れない子供たちは仮設住宅暮らしや親戚の家にお世話になったり、もう二度と帰宅できないであろうことから新しい地域に家族で移り住んだりしているが、その肉体的、精神的苦痛は私たちの想像に余りある。日本でも教会関係のキャンプなどに行ってもらっているんだけど、1週間以下で短くて、直ぐに元の生活に戻ってしまうから、彼らを3週間くらいアメリカで自由にのびのびとキャンプ生活を送らせてあげたい。」と加藤先生が続けられ、私は是非、SMJ/JAUCで長年やってきたディスカバ

リー・キャンプに被災地から子供たちを迎え入れたいと思い「いいですね。やりませんか。」と加藤先生に応答しました。

その話をSMJ理事会とキャンプ委員会(運営委員会)に持ち帰り昨夏の終わりには我々の方は「是非やりましょう。受け入れましょう。」と一致して心構えができていました。しかし送り出す日本基督教団側は財政的な理由や、子供を3週間も親から離れてアメリカに連れていくということで安全面の問題などから、なかなか話が進みませんでした。

ようやく今年に入ってから話が展開し日本から10名の子供と大人2名の付き添いをお受けすることになりました。教団でも既にその為の基金が設けられたとのこと。こちらでもファンドレイジング(基金集め)を早速することにし、4月26日(日)にニューヨーク日米合同教会、5月2日(土)にニュージャージー・レオニアの長老派教会でニューヨーク在住のピアニスト田中友樹子さんのリサイトをすることになりました。詳細は別紙をご覧くださいとして、田中友樹子さんに心から感謝いたします。

私は家族と4月の復活祭後に一時帰国しますが、少しでもこの夏のキャンプで被災地の子供たちを迎えるお役にたてるように、教団本部を訪問したり、東京駒場エデン教会と西宮甲東教会でキャンプのリユニオンを計画して下さっていますので元キャンパーやカウンセラーとの再会を楽しむだけではなく、お祈りと可能なら献金支援もお願いしたく願っております。

この日本語、英語のバイリンガル・キャンプ伝道は2012年を最後にディレクターとしての直接参加から退き後進に委ねましたが、SMJ理事長代行として今もキャンプを主催する立場から伝道に関わらせていただき、皆様、神に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。

皆様どうぞ良い復活祭をお迎えください。

平安、

吉松 純



## トリニティー合同メソジスト教会 音楽イベントのお知らせ

ニューマン大学合唱団コンサート 4月25日  
(土) 午後4時。入場無料、自由献金制。献金は3・11の被災地とニュージャージーのハリケーン・サンディー被災地を支援する Future with Hope Mission (合同メソジスト主導) に送られます。トリニティーでは2回目、グッドシェパードから数えると3度目の公演です。

指揮者の石田雪子先生は昨年、駐日アメリカ大使、キャロライン・ケネディー氏のパーティーで讃美するという栄誉を賜りました。

ケネディー駐日大使の前で歌う石田雪子先生



今年も素晴らしい曲目をご用意くださっています。どうぞお出かけ下さい。

岩永善信ギター・リサイタル 6月14日  
(日) 午後4時。入場無料、自由献金制。

日本のクラシック・ギター界トップの演奏者、岩永氏が6年ぶりにニューヨークに來訪しトリニティーでのリサイタルを申し出ていただきました。岩永氏の超絶技巧をご堪能下さい。



教会: The Trinity United Methodist Church  
20 Route US 9 N, Marmora, NJ 08223  
(609) 390-3248

Website: [www.trinityumcmarmora.org](http://www.trinityumcmarmora.org)

Facebook: [facebook.com/trinityumcmarmora](https://facebook.com/trinityumcmarmora)

現在の教会の色々な活動がご覧いただけます。

UMC 日本語ミニストリーホームページ:

<http://www.umc-japan.org>

アップデートしました。

SMJ レオニア日本語礼拝 (第二日曜日午後3時)

The Presbyterian Church in Leonia

181 Fort Lee Road, Leonia, NJ 07605

吉松牧師も3ヶ月に1度説教に伺っています。